

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	西村 貴子	職名	講師	学位	修士(栄養科学)(中村学園大学2018年)
----	-------	----	----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
食生活学(臨床栄養を含む) スポーツ科学・応用健康科学	健康と食生活、食教育、食と環境、栄養アセスメント スポーツ栄養学、障害者スポーツ、栄養指導

研究課題
1. 臨床における障がい特性に合わせた効果的な栄養アセスメント項目の探索 2. 日本人障がい者を対象とした基礎代謝量等のエネルギー消費量推定に関する基礎研究 3. 身体活動(運動を含む)量と摂食行動および摂食関与因子との関連についての検討

担当授業科目
臨床栄養管理学(2年後期) 栄養教育論実習Ⅱ(3年後期) 運動・環境と栄養(3年後期) 総合演習Ⅱ(4年前期) 管理栄養士演習Ⅱ(4年通年) 臨地実習Ⅱ(3年後期から4年前期) 初年次セミナーⅠ(1年前期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【臨床栄養管理学】 本科目では、基礎分野(人体の構造と機能及び疾病の成り立ち・基礎栄養学)で学んだ栄養についての知識(理論)を、病院や介護といった臨床(現場)でどのように活用するか、その実践方法の修得を目的とした。具体的には、栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)の手法、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用等について、理解を深め、多職種連携を含めた総合的な栄養ケアマネジメントの考え方について、病院で行われている事例を提示しながら、解説を行った。
授業科目名【栄養教育論実習Ⅱ】 栄養ケアマネジメントを行うためには、対象者の望ましい行動形成と変容を図るための教育的手法を修得する必要がある。本科目では、人間の行動に関する科学的な根拠をもとに、個人栄養指導・集団栄養指導それぞれの利点・欠点の理解するため、具体的な教育手法についてロールプレイングを取り入れた実習を行った。
授業科目名【運動・環境と栄養】 3人の教員が分担する栄養学科3年生のための講義である。運動刺激に伴った生理反応と栄養の関連について講義を行った。特に、スポーツ栄養分野で重要視されるパフォーマンスの向上のための競技別の体格獲得に向けた栄養管理について講義を行った。
授業科目名【総合演習Ⅱ】 本科目では、実践栄養分野において、管理栄養士としてのマネジメント能力を培うことを目的とする。基礎分野を踏まえ、「臨床栄養管理学」および「栄養治療学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ内容を実際に演習した。具体的には、疾患を持つ症例を具体的に提示し、それらに対して、特有の病態や治療法の把握、栄養アセスメント項目の選択と総合的な栄養評価の実施、目標の設定、栄養補給方法の選択や症例に提示する行動計画といった詳細な栄養ケア計画立案に至るまでの一連のマネジメント手法について、実際の状況を想定した演習(訓練)を行った。

<p>授業科目名【 管理栄養士演習Ⅱ 】</p> <p>本科目は、管理栄養士国家試験「臨床栄養学」分野の出題傾向およびポイントを理解することを目標としている。演習問題の直接の内容にとどまらず、実際の現場での活用方法や他職種の理解及び連携について実例を提示し、一部に固執せず、多面的かつ総合的な判断ができるような講義展開を行った。</p>
<p>授業科目名【 臨地実習Ⅱ 】</p> <p>本実習は、臨床栄養の実践活動の場（病院）における学外実習を通して、管理栄養士として必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、具備すべき知識・技能を修得することを目標としている。病院において、2～3 週間の実習を行うため、事前学習として、オリエンテーションを実施し、実習の目的、実習に対する心構えおよび身だしなみ等について、細かく指導した。実習評価表に記載されている項目に関しては、学生自身の知識を整理するために、自己学習ノートの作成を指示し、実習に対する事前学習の機会を設けた。また、実習施設より出された課題については、個別に添削指導してできる限りの指導を行った。実習中は、実習施設を訪問し、施設の実習指導担当者の指導等に基づき、学生への指導を行った。</p>
<p>授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】</p> <p>大学は、学生自らが目的をもって主体的に学ぶ場であり、基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力が求められる。これらの力を獲得するためには、ただ単に基礎的な知識を効率よく覚えるということではなく、自らが積極的に課題を探究していく姿勢をもたなければならない。初年次セミナーⅠでは、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本の強化を図るため、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等の ICT 活用法等、大学で主体的に学ぶ技法の習得を目指した。特に、栄養学科の学生がさまざまな実験実習に対応できるように『栄養学科で使用する計算・単位』『レポートの書き方』等、実際の事例を用いることにより、理解を促した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会	正会員	2003年4月～現在に至る
日本スポーツ栄養学会会員	正会員	2014年4月～現在に至る
九州体育・スポーツ学会会員	正会員	2015年6月～現在に至る
日本健康支援学会会員	正会員	2015年12月～現在に至る
日本体力医学会	正会員	2017年5月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) 1.Post-exercise appetite and adlibitum food intake responses to acute bouts of moderate- versus high-intensity exercise in young male adults: a randomized crossover	共著	2020年6月	The International Society of Behavioral Nutrition and Physical Activity (ISBNPA) 2020 (19th) meeting. (Auckland, New Zealand : SBNPA	①To investigate the effects of a single moderate- or high-intensity exercise session on subsequent appetite and energy and macronutrient intakes, which depend on food choice and feeding behavior. The results showed that in young adult males, high-intensity exercise suppresses appetite, especially the

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
trial.			XChange Initiativeとしてオンライン開催；誌面発表	<p>desire to eat fatty and salty foods, and influences temporal foodchoice such that protein intake immediately after exercise is low. However, moderate-intensity exercisedoes not find significant effectson the subsequent appetite and feeding behavior.</p> <p>②Kumahara H, <u>Nishimura T</u>, Ayabe M, Tobina T, Yoshimura E, Imamura M, Tai H, Itoh Y, Aoki S, Kakimoto N, Kitajima S, Ichida Y, Nakano S</p> <p>③研究遂行においては共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p>
<p>(その他・報告)</p> <p>1. 障がいのあるスポーツ選手を対象としたエネルギーおよび栄養素摂取、生活習慣および食生活に関する報告</p>	共著	2021年3月	公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会科学委員会	<p>①公益財団法人日本障がい者スポーツ協会および日本パラリンピック委員会が平成18年から平成26年の9年間に渡って実施した栄養・食事に関する調査およびその報告書をふりかえり、データを再編集してまとめたものである。</p> <p>②元永 恵子、<u>西村 貴子</u>、秦 希久子、高木 久見子、影山 鈴美、内野 美恵</p> <p>③遂行においては共同研につき本人担当部分抽出不可能</p> <p>教育研究業績総数 (2021年3月31日現在)</p> <p>著 書 0 学術論文 3 (内訳 単0、共3) 学会発表 16 (内訳 単0、共1) 報告書 1 (内訳 単0、共1)</p>

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
【委員会等】		
・公益財団法人福岡県体育協会 スポーツ医・科学サポート事業	スポーツ医・科学スタッフ (スポーツ栄養領域)	2013年4月～現在に至る
・公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会 医・科学・情報サポート事業	栄養領域スタッフ	2016年4月～現在に至る
・福岡県女性アスリート医科学サポート研究委員会	委員	2019年12月～現在に至る
・一般社団法人日本パラ陸上連盟 強化委員会	強化委員	2020年4月～現在に至る
・一般社団法人日本車いすテニス協会	栄養サポート強化スタッフ	2020年4月～現在に至る
【講習会・セミナー等 他】		
・日本車いす協会 次世代育成強化指定選手リモート勉強会	講師	2020年8月1日
・日本パラ陸上競技連盟強化委員会 第1回次世代アスリート育成強化合宿	栄養スタッフ・講師	2020年8月1日～8月3日
・日本パラ陸上競技連盟強化委員会 第2回次世代アスリート育成強化合宿	栄養スタッフ・講師	2020年12月25日～12月28日
・福岡県聴覚障害者協会 難聴者・中途失聴者のための情報講座	講師	2021年3月13日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

- ・学生個人情報保護委員会委員（2020年4月～現在に至る）
- ・情報システム管理運用委員会委員（2020年4月～現在に至る）